

令和5年度 赤穂市立赤穂小学校 学校評価報告書

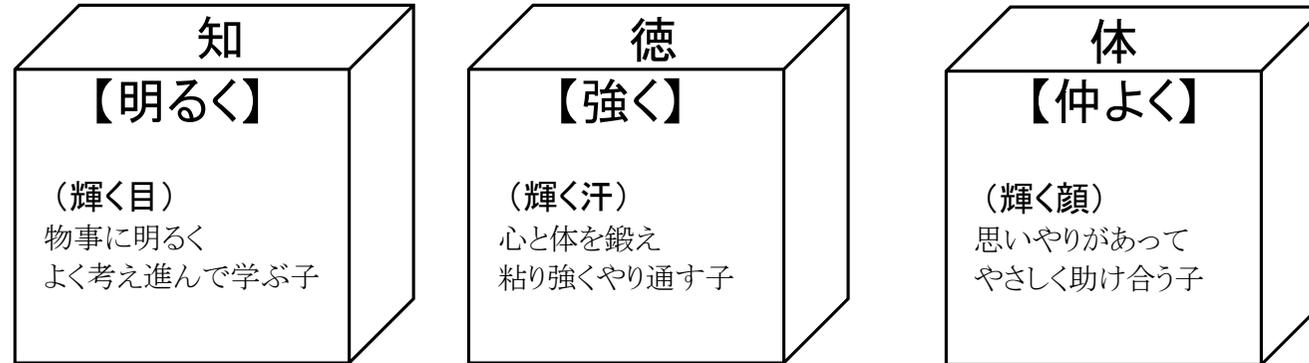
学校名 赤穂市立赤穂小学校

1 赤穂小学校の教育

(1) 教育目標

夢を大きく膨らませ、共に支え合う児童を育てる

(2) 校訓



(3) 本年度の学校経営方針

<重点>

- 発達や学習の課題を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に向けた取組を進めるとともに、指導と評価の一体化を進め、確かな学力の定着を図る。
- 児童一人一人の内面に対する共感的な理解を深め、学校行事等の集団活動を通して望ましい人間関係の形成、実践的態度の育成を図る。
- 授業や遊びを通して、運動への興味・関心を高め、運動習慣の定着を図る。
- 重点目標
 - 1 児童のよさや可能性を伸ばし、自己有用感や自尊感情を高める指導の充実を図る。
 - 2 基礎・基本の確実な定着を図り、創造性や個性を伸ばす教育を推進する。
 - 3 夢や目標の実現に向けたキャリアプランニング能力の育成をめざす。
 - 4 人権尊重の精神を基盤に豊かな人間性の育成をめざす。
 - 5 社会の変化に対応した教育活動を展開し、指導者としての専門性と実践的指導力の向上をめざす。
 - 6 道徳教育・体験活動を充実し、他者を尊重し思いやる「豊かな心」を育む。
 - 7 児童の生活実態を把握し、授業や生活の中での体づくりや環境整備に取り組む。
 - 8 学校・家庭・地域社会との信頼関係を確立し、地域への愛着や誇りを育む。
 - 9 学校業務改善に取り組み、児童と向き合う時間を積極的に確保する。

(4) 本年度の学校重点目標

- | | |
|------------------------|---------------------------------|
| ①学習指導要領に基づいた教育課程の着実な実施 | ⑩心の通い合う生徒指導の充実 |
| ②キャリア教育の充実 | ⑪防災・安全教育の充実 |
| ③特別支援教育の充実 | ⑫学校園所・家庭・地域との連携(コミュニティ・スクールの充実) |
| ④人権教育の徹底 | ⑬福祉教育・ボランティア活動の推進 |
| ⑤道徳教育の充実 | ⑭健康教育・食育の充実 |
| ⑥外国語教育・伝統文化に関する教育の推進 | ⑮プログラミング教育の充実 |
| ⑦読書活動の推進 | ⑯教職員の専門性と実践的指導力の向上 |
| ⑧環境教育の推進 | ⑰学びの保障に向けた教育活動の創造 |
| ⑨「生きる力」を育む魅力ある学校づくりの推進 | |

【総合的な学校関係者評価】

・一年間、積極的な活動で学校の情報をたくさん聞くことができました。参観日でも、子ども達のがんばりを観ることができてよかったです。コロナ・インフルエンザは、まだまだ心配ですが、子ども達の充実した教育を続けるよう、これからもよろしくお願いします。学校に通いたくなる教育、家庭との連携を引き続きお願いします。

・目まぐるしく変化する環境の中、児童に向き合っている様子がうかがえます。児童アンケートの「家の人は学校の様子をよく聞いてくれる」という項目のCとDの人数、保護者アンケートの未回収数から見て、保護者にも子ども・学校に興味をもってもらえるような魅力ある学校づくりに取り組んでもらいたい。

・良いと思います。全てに！

・学校評価については、分かりやすくまとめられていると考える。これから(来年度)に向けて、今まで以上に子どもが笑顔で過ごせる学校づくりをお願いしたい。

・コロナが第5類になり、色々な活動ができるようになり、児童の幸せそうな表情を見ることができた今年度、教職員の達成感が強くあり、ほとんどの評価が高得点であることは素晴らしい、また、先生の会議に児童数名が参加して生活目標の確認など行っているとの事、非常に良いアイデアですね。来年度は、教職員と運営協議会員との定例会議などあれば、さらに良い学校づくりができると思われれます。教員不足の中、働き方改革推進とそこで一言。PTAは任意・強制の問題ではない。親と教師が子ども達の幸せのために力を合わせて協力する、親・子ども・教師の3つの満足(幸福)が生まれるのである。そんなことがなぜ分かん！

2 自己評価結果 (A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料等	達成状況	改善の方策
(実践の柱)	評価指標及び目標値(期待される姿)				
①学習指導要領を踏まえた教育課程の着実な実施	項目	基礎基本の定着のための指導方法の工夫や、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善に努めているか。	教職員アンケート【3.9】	A	授業者は、各教科の「基礎基本の定着に向けた「授業改善」を実施しているものの、保護者・児童アンケートからは、「授業がわからない」児童がいることも明らかであり、その数は少数とは言えない。まず、学級内に「授業がわからない児童」がいることを前提に、学力向上を目指す取組が大切である。学力に対する児童の困り感を教師が受け止め、具体的な対応(何がわかっていないのか?それをどうしていくのか。)を考えていく必要がある。 キャリア教育については、子供達一人一人が、生涯を見据えて、学ぶ意義や目的を見出し、充実した人生を送る基盤を形成するために重要である。キャリアノートの活用をさらに充実させ、子供達のキャリアプランニング能力の育成に努めていく。
	指標	「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善に進んでいる。			
	項目	指導と評価の一体化を図っているか。	教職員アンケート【4.0】	A	
	指標	PDCAサイクルを重視した授業改善を図っている。			
	項目	キャリアプランニング能力の育成に努めているか。	教職員アンケート【4.0】	A	
	指標	学ぶことや働くことの意義を理解する授業や、生き方を主体的に判断する授業を行っている。			
②「生きる力」を育む魅力ある学校づくりの推進	項目	年間を通して、環境整備を意図的・計画的に行っているか。	教職員アンケート【3.4】	A	「特色ある学校づくり」が大きな課題の一つである。コロナ禍により、体験活動の実施や外部講師の招聘が困難な状況であったが、令和5年度からは、そのような制限が解除されている。赤徳小学校区の特性を見直し、「子どもたちへ何を学ばせるのか? (何を伝えるべきなのか)」という視点で、教育内容の再考を図りたい。児童の健康・安全な生活環境づくりに向けて、「通学路の安全状況」「学校内の安全点検」等について、引き続き、現状を確実に把握した上で、改善に向けた具体的な取組を進めていく。
	指標	当番活動、係活動等を充実し、過ごしやすい教室の雰囲気作りを行っている。			
	項目	実効ある危機対応マニュアルを策定し、危機管理体制が構築されているか。	教職員アンケート【4.0】	A	
	指標	自治体及び関係諸団体と連携し、各学校園で作成している安全三領域(生活、災害、交通)に対応した研修や訓練を実施し、必要に応じて改善を図ることに努めている。			
	項目	特色ある教育活動の推進に努めているか。	教職員アンケート【3.5】	A	
	指標	特別クラブ・防災学習・地域学習(町探検・加里屋川・赤穂義士等)について、充実した活動を行っている。			
③生徒指導	項目	一人一人の内面理解に努め、人間的なふれあいを基盤とした生徒指導を推進しているか。	教職員アンケート【4.0】	A	今年度も重大ないじめ事案は発生していない。これは、「いじめは絶対に許してはいけないが、必ず起きるものだ。」という積極的認知の姿勢のもと、未然防止・早期発見・早期対応に努めていることによると考えられる。特に、今年度も適切に「生活アンケート」を実施し、そのアンケートを全教職員で振り返る時間を確保している。些細なことでも気になることがあれば、すぐに児童から話を聞き、いじめにつながることを予想されれば、「いじめ対策委員会」を開催している。(定期的+臨時)次年度も児童一人ひとりを大切にす指導を進めていく。
	指標	毎日、学級にいる全ての児童に声をかけ、コミュニケーションをとっている。			
	項目	好ましい人間関係づくり、児童の心の居場所づくりに努めているか。	教職員アンケート【4.0】	A	
	指標	生活アンケートを活用し、学級で起こる諸問題を解決している。			
④人権教育	項目	教育活動全体を通じ命や人権を大切にす心を育てているか。	教職員アンケート【4.0】	A	継続した教師自身の(今日的な)人権課題意識(ネットによるいじめ、LGBT等)の高揚が必要である。その上で、「教室における指導」「全校的な取組」の必要性を整理していく。具体的な取組としては、パソコンやスマホの正しい利用に向けた「情報モラル教育」の充実を図り、ネット空間における人権に目を向けていく。
	指標	児童は自他の命を大切にし、お互いを思いやる心が育っている。			
	項目	いじめ、インターネットによる人権侵害等、今日的な人権課題に対する理解の促進を図っている。	教職員アンケート【4.0】	A	
	指標	新たな課題に対応した人権教育資料を効果的に活用し、研修を行っている。			
⑤道徳教育	項目	全教育活動の中で、道徳性の育成に努めているか。	教職員アンケート【4.0】	A	赤徳小学校では、道徳科の年間指導計画をもとに、計画的・横断的(他教科との連携)に指導を進めている。次年度も、道徳の時間を中心にして、学校生活全般において、道徳教育の推進に努めていく。
	指標	道徳科の授業を要の時間として、他教科や生活面でも児童の内面の理解に努めている。			
	項目	道徳の授業時数を確保し、指導法の工夫や研究に努めているか。	教職員アンケート【4.0】	A	
	指標	週一時間の授業時間を確保し、カリキュラム通りに実践的な授業を実施している。			

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切ではない ×:適切ではない

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容定着のため、各家庭の協力も必要。 ・理解不足の児童への対応(学校ボランティアなどを活用し、放課後補習をする) ・継続をお願いします。
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・校区の絵マップづくり 各学年でテーマを決め、「通学路」「買い物」「店」「公共施設」などを地図に仕上げてはどうか。 ・課題は、見えていると思いますので、来年度へ向け活動をお願いします。
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートだけでは不十分。日常的に児童との関係を密にしておく。 ・継続をお願いします。
○	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット空間による「いじめ」については、低学年からの教育が必要である。 ・情報モラル教育は、低学年からしっかり発信をお願いします。
○	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・「道徳」という教科だけでなく、日々の生活の中での教育にも努める。 ・継続をお願いします。

(A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (実践の柱)	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料等	達成状況	改善の方策
	評価指標及び目標値(期待される姿)				
⑥特別支援教育	項目	インクルーシブ教育システム構築に関する教職員の専門性の向上に努めているか。	教職員アンケート【3.6】	A	次年度も、保護者、教師間、各校園所、関係専門機関との連携を積極的に進めていく。若手教員が増えている中、「教職員の専門性のさらなる向上」「充実した連携の継続」が課題である。特別支援教育の充実に向けて高い意識を持ち続け、教員個人のレベルアップを図り、児童の困り感に寄り添うことが大切である。
	指標	個別の教育支援教育や個別の指導計画を作成している。			
	項目	保護者、関係機関との連携を図っている。	教職員アンケート【4.0】	A	
	指標	配慮の必要な児童の支援として、保護者・関係諸機関と連携している。			
⑦福祉教育	項目	高齢者や障がいのある人などへの理解を深めているか。	教職員アンケート【3.3】	B	他者を理解するためには、具体的な体験学習(車椅子体験等)が必要である。充実した体験活動と道徳等の他教科とも横断的に連携し、学習を深めていく。
	指標	体験学習など多様な学習方法を取り入れて実践している。			
⑧環境教育	項目	自然や命あるものとのふれあいを通して、自然に対する豊かな感性や命を尊ぶ心の育成に努めているか。	教職員アンケート【3.0】	B	各教科指導において、積極的に環境教育の視点を盛り込み指導を継続していく。学校の指導のみならず、今後も学校と家庭が連携ながら体験活動等の一層の充実を目指していく。
	指標	生き物の飼育・栽培・ごみの分別・食育・環境体験学習など、環境に関わる内容を意識して指導している。			
⑨国際理解教育	項目	自国や他国の歴史・文化について理解を深めているか。	教職員アンケート【3.2】	A	「どのような内容を?」「どのようにして?」児童に指導するののかという指導に関するビジョンを、教師自身が明確に描くことが必要である。
	指標	自国や他国の歴史・文化にふれ、ALTを交えた授業を構成している。			
⑩情報教育	項目	ICTの積極的な活用を進めているか。	教職員アンケート【3.8】	A	3年生以上で「デジタルドリル」を活用した学習を進めてきた。家庭学習については、ICT機器が必要な部分と紙媒体が必要な部分を明確にし、基礎的な学力の定着を図っていく。
	指標	電子黒板やタブレット等を活用した授業づくりをしている。			
	項目	情報モラルの育成やメディア利用についての家庭でのルールづくりに努めているか。	教職員アンケート【3.0】	B	
	指標	各学年に応じたメディアリテラシー学習を学期に一度行っている。また、ネットトラブルに関する新しい情報を学年通信などで家庭に発信している。			
⑪健康教育	項目	生活習慣の育成、感染症防止に努めているか。	教職員アンケート【3.9】	A	今年度は、「熱中症に対する懸念」から、児童の運動量に大きな減少傾向が見られた。「授業の中でできること(運動技能や運動意欲の向上に向けて)」「全校的に取り組めること」「家庭で取り組んでいただきたいこと」を整理し、大きな課題の一つとして児童の体力向上を図りたい。
	指標	学校生活の中で子どもの行動・発言に対して適切な指導を行っている。			
	項目	運動習慣の定着を図るための指導の工夫・改善に努めているか。	教職員アンケート【3.3】	B	
	指標	朝活動で体づくり運動を継続して行い、子どもが熱中できる体育の授業づくりに取り組んでいる。			
⑫防災教育	項目	充実した防災教育が実施されているか。	教職員アンケート【3.7】	B	「1月17日」「3月11日」等、様々な防災関連の日を捉えて、全校的に発達段階に応じて「防災教育」を進めることができた。今後も、「場面に応じた適切な避難」を目標に掲げ、災害発生時の児童の多様な対応力を高めていきたい。また、「阪神淡路大震災から30年」を迎えるにあたり、震災の記憶を引き継ぐことも大切である。
	指標	防災教育読本「明日を生きる」等の活用を行い、各教科や体験活動等を通して、災害から自らの生命を守るために主体的に行動する力を育成している。			

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
◎	◎	・児童、各家庭との信頼関係が大切である。経験の少ない若い教師を補助する立場の人材を配置する。 ・継続をお願いします。
◎	◎	・コロナ前のように老人会の協力で「昔あそび」を実施する。 ・今も行われていると思いますが、福祉大学との連携をさらに深めていく。
○	◎	・作物の栽培に地域の力を活用する。児童の指導(授業)に参加してもらう。 ・外で遊ぶことが少なくなっているのが難しいですね。
◎	◎	・校区に住む外国人とふれあう機会をつくる。 ・何がとは言えませんが、興味をもつこと、話題づくりを考えてください。
◎	◎	・タブレットの使い方のルール作りを進める。学校として統一したものが必要。 ・タブレットを使った学習が増えたり、時代の流れによりネットに対する意識が低くなっているため、これからより一層、親子で気にしていかなければならないと思う。 ・情報モラルは、子ども達で進んでいくので、親にも分からない見えないことになっています。外からの話しかけで抑止できるように活動してください。
◎	○	・1月の「先生鬼ごっこ」のように、「遊び」の中で体力向上を図る。 ・こまめな水分補給をし、児童も自分の体調に気をつけ、無理をしない。もしもの時は、先生に言える環境作りもしていきたい。 ・なかなか外では難しい環境になっています。
◎	◎	・「語り部」による震災の記憶の引き継ぎ。 ・避難場所である学校の体育館にエアコン設置などの働きかけをお願いします。

(A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (実践の柱)	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料等	達成状況	改善の方策
	評価指標及び目標値(期待される姿)				
⑬家庭と地域との連携	項目	家庭や地域への情報発信を十分に行っているか。	教職員アンケート【3.9】	A	「今、子どもたちは、学校で何をしているのか？」という情報発信に取り組んできた。次年度も、情報発信を継続していく。(コロナ禍が明けた)令和5年度、地域人材の活用については、不十分であると感じている。「どの教材で」「何を教えるために」「どのような人材を活用するのか」というビジョンを描かなければ、この課題を解決することができない。地域人材の活用に向けて具体的な構想を立てていくとともに、地域人材に関するとりまとめが必要である。
	指標	学年便りや各種お知らせ文書を分かりやすく丁寧に作成している。			
	項目	地域人材や地域教材の活用に努めている。	教職員アンケート【3.6】	B	
	指標	外部講師や保護者・地域人材を活用した学習活動に積極的に取り組んでいる。			
	項目	家庭や地域との連携・協力は図られている。	教職員アンケート【3.9】	A	
	指標	連絡帳や電話等を活用して、保護者と密に、また日常的に連絡を取り合うことができている。			
⑭資質・指導力の向上、研修の充実	項目	教育公務員としての使命感・倫理観の自覚ができている。	教職員アンケート【4.0】	A	教育公務員の不適切な行為が多数報じられているところである。管理職が、このような事案を正確に職員へ伝え、教育公務員として高い倫理観をもちつづけていく指導が必要である。「教員としてあるべき姿」「教員としての資質向上」は、学校管理者の広い視野とリーダーシップが必要である。教育公務員としての使命感や倫理観の自覚を促すために、事案に関する情報提供を積極的に行うとともに、研修を定期的実施していく。
	指標	服務規律を点検し、心ふれあう職場づくりに努めている。			
	項目	専門職としての力量をみがく、主体的な研修と実践が行われている。	教職員アンケート【3.4】	A	
	指標	自主的に研修会に参加したり教育書を読んだりする等、指導力の向上に向けて取り組んでいる。			

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に開かれた学校になるため、「学校だより」を校区内に回覧してはどうか。 ・引き続きお願いします。
◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・時間をとるのが難しいと思いますが、研修などの参加、企画をお願いします。

【自己評価における特記事項】

※達成状況の評価は、評価平均点を示しており、下記の点数で自己点検を行い、教職員数で平均している。
A:達成した…4ポイント B:ほぼ達成した…3ポイント C:あまり達成できなかった…2ポイント D:達成できなかった…1ポイント
※職務内容が異なることから、評価項目全て当てはまるとは限らない。また、最終的に「児童アンケート」「保護者アンケート」を考慮した上で、達成状況の評価を決定している。
※達成状況で、評定点数が「3.5以上」をA、「2.8以上3.5未満」をB、「2.8未満」をCとしている。

【項目以外の点で次年度の課題や具体的改善方法】

- ・「学校へ行くのを楽しみにしている」と考える親が100%になるように子ども達のための「学校づくり」をしていく。(子ども達の意見も取り入れる)
- ・教職員の科目以外のスキルを上げなければならない項目が多くあるようです。難しいことですが、他団体との交流、情報交換により知識の向上をお願いします。